



かしのテスト

1 よんで くださいましよう。 [50てん]

おじさんは、とつても りっぱな
かさを もって いました。くろくて
ほそくて、ぴかぴか ひかった つえ
のようでした。

おじさんは、でかける ときは い
つも、かさを もって でかけました。
すこしぐらいの 雨は、ぬれた ま
ま あるきました。かさが ぬれるか
らです。

もう すこし たくさん 雨が ふ
ると、雨やどりして、雨が やむまで
まちました。かさが ぬれるからです。

いそぐ ときは、しつ
かり だいて、はしつ
て きました。かさが
ぬれるからです。



雨が やまない ときは、
「ちよっと しつれい、そこまで い
れて ください。」

と、しらない 人の かさには いら
りました。かさが []。

もっと もっと 大ぶりの 日は、
どこへも でかけないで、うちの 中
に いました。そして、ひどい かぜ
で かさが ひっくりかえった 人を
見て、

「ああ よかった。だいじな かさが

こわれたかも しれない。」

と いました。

(佐野 潤子「おじさんのかさ」より)

(1) おじさんの かさとは、どんな
かさでしょう。 [17(14てん)]

くろくて

ひかった

つえのようなりっぱな かさ

(2) おじさんは つぎの とき、どう
したでしょう。 [17(28てん)]

① すこしぐらいの 雨の とき。
ぬれた まま

② いそぐ とき。
かさを しつかり だいて、

③ 雨が やまない とき。

しらない 人の [] に

(3) [] には どんな ことばが
入るでしょう。 (8てん)

からです。

(つらめんく つく)

こ た え

【かくにんテスト】

- 1 (1) (くろくて) ほそくて ()
 びかびか (ひかっ た つえの
 ようなり っぱな かさ)
- (2) ① (ぬれた まま) ある
 きました ()
 ② (かさを しっかり
 だいて) はしっていき
 ました ()
 ③ (しらない 人の) か
 さ(に) はいりました ()
- 2 (1) (3) ぬれる (からです。)
- (2) (1) 虫のついていない (実。)
- (2) ロ (で しっかりと) くわ
 えて (はごぶ。)
- (3) ものかげ (などの) あんげ
 ン (な しよくじ場で たべ
 る。)
- (4) (前歯で) 皮 (かわ) (を)
 さいて (はがす。)
 (からに) あな (を あけ
 る。)
- 3 (1)

ミ	シ	ン
マ	イ	ク
チ	ー	ズ
- (2) (1)

ミ	シ	ン
マ	イ	ク
チ	ー	ズ
- (3) (1)

ミ	シ	ン
マ	イ	ク
チ	ー	ズ

て び き

- 1 (1) おじさんの かさは、「でかける ときは いつも」もって
 でかけたくなるくらい「りっぱ」だったのです。
- (2) ①「すこしくらいの 雨は」、②「いそぐ ときは」、③「雨が
 やまない ときは」という ことばに ちゅうもくしましょう。
- (3) おじさんは、「でかける ときは いつも、かさを もって
 でかけ」て いたのに、雨が ふって きて、かさを さそう
 とは しませんでした。とても だいじな かさだったので、
 おじさんは ぬらすのが いやだったのです。
- 2 (1) 「どんな 実を えらんで たべるでしょう」と あるので、
 「木の 実」という ことばは まちがいです。
- (2) 「虫の ついて いない 実」を ロで くわえて はごぶの
 です。
- (4) ひめねずみが、木の 実の なかみを たべる ようすは さ
 いこの まとまりに かいて あります。
- 3 (1) 「ツ」を「シ」に なおしましょう。
- (2) 「ア」を「マ」に なおしましょう。
- (3) 「テ」を「チ」に なおしましょう。